



愛知県における多文化共生の取組

～乳幼児期と老年期を中心に～



2020年1月23日
愛知県多文化共生推進室
各務 元浩

1

いち多文化共生推進プラン2022 施策目標

I ライフサイクルに応じた継続的な支援

定住化・永住化に伴い、外国人県民は、乳幼児期から老年期までの人生の各ステージにおいて、日本人と同様の課題を抱える一方で、「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」による外国人特有の課題もあります。

そこで、各施策を個別に考えるのではなく、ライフサイクル全般を見渡した継続的な支援の観点から、福祉、医療、教育、防災などとの連携を視野に入れた施策を行っていきます。



2



愛知県の多文化子育て事業の経緯



日本語指導が必要な外国人児童生徒数
全国1位（1992年～）

- ✓ 2006年 プレスクール（外国人の未就学児に対する初期の日本語指導・学校生活適応指導）モデル事業開始



- ✓ 2009年 「プレスクール実施マニュアル」の作成
普及に向けた説明会の開始



- ✓ 2016年 「子育て外国人の日本語習得モデル事業」の実施⇒2018年から「多文化子育てサロン」

3



愛知県の多文化子育て事業の経緯



日本語指導が必要な外国人児童生徒数
全国1位（1992年～）

新たな主体との関わり
・幼稚園・保育園
・子育て支援センター
・保健所 など

- ✓ 2006年 プレスクール（外国人の未就学児に対する初期の日本語指導・学校生活適応指導）モデル事業開始



- ✓ 2009年 「プレスクール実施マニュアル」の作成
普及に向けた説明会の開始

○ 2013年から再び外国人県民が増加
○「あいち外国人の日本語教育推進会議」
での問題提起



- ✓ 2016年 「子育て外国人の日本語習得モデル事業」の実施⇒2018年から「多文化子育てサロン」

4



県内市町村と連携して、多文化子育ての拠点づくりを推進しています。

乳幼児を持つ外国人県民が、日本人親子との交流の中で、子育てに必要な情報を得たり、子どもに言葉を教えるポイントを学ぶ「多文化子育てサロン」を実施しました。

◆**県内3か所**（豊橋市、犬山市、知立市）で**計24回実施**し、乳幼児を持つ外国人県民、日本人親子が**計189組**が参加しました。

◆ゆったりした雰囲気、楽しみながら参加できる内容になるよう工夫しました。

- ・ベビーマッサージやリズム遊び
- ・参加者出身国のクッキング
- ・絵本の読み聞かせ
- ・日本語の歌や紙芝居体験
- ・子ども「病気」や「栄養」に関する有識者の講座
- ・地域の子育て支援センター・図書館等の訪問など

◆日本人・外国人ということ意識することなく、同じ子育て世代として、楽しく活動に参加する姿が見られました。

悩みや疑問について共有し、講師等を中心にアドバイスを受ける機会にもなりました。

★**連携協働団体**

- ・NPO法人フロンティアとよはし（豊橋市）
- ・NPO法人シェイクハンス（犬山市）
- ・NPO法人みらい（知立市）

◇詳しくはこちら：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/takosalon.html>

◇「多文化子育てサークル」実施マニュアルはこちら：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/tabucircle-manual.html>



親子でリズム遊び♪



子育てや「ことば」に関する情報提供



愛知県の外国人高齢者施策の経緯



- ✓ 2016年 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト（任意団体）が介護通訳者の養成とボランティア派遣事業を実施
- ✓ 2018年 「あいち多文化共生推進プラン2022」において、外国人県民への「老年期」に関する取組について明記
- ✓ 2018年 「あいち医療通訳システムフォローアップ研修」で、介護制度や高齢者に多い病気についてセミナーを実施し、研究を進めた。⇒2019年に向け、取組を推進

愛知県の外国人高齢者施策の経緯

✓ 2016年 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト
(任意団体)が介護通訳者の養成とボランティア派遣事業を

新たな課題認識

- ・特別永住者の高齢化
- ・中国帰国者の高齢化
- ・日系人の高齢化

○策定の議論の中で、「ライフサイクル」を
施策目標としたことで、「高齢期」の取組が
注目された。

○NPOによる外国人介護の取組の増加

2018年「あいち多文化共生推進プラン2022」に
おいて、外国人県民への「老年期」に関する取組について
明記

✓ 2018年「あいち医療通訳システムフォローアップ研修」
で、介護制度や高齢者に多い病気についてセミナーを実施
し、研究を進めた。⇒2019年に向け、取組を推進

7

外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト概要

- 外国人の高齢化が今後も進んでいくことが予想されるが、そのための施策は行政においてはまだとられておらず、介護施設においては受入体制はまだまだこれからだと言えます。
- また、介護制度に外国人がアクセスできていない状況の中、介護を始めとする外国人の高齢化に対する課題に早急に取り組んでいかなければならない。
- そこで、外国人と介護制度をつなぐため、**3つの試み**を行うこととした。

① **介護通訳者の養成・ボランティア派遣**

② 外国人への介護制度周知等の働きかけ

③ 行政・関係機関等に対する外国人の介護問題に関する啓発活動



介護通訳者の養成研修



- > 一定レベル以上の語学力を持つ人を募集し養成（中国語のみ）。
- > **知識・倫理・通訳技術**を体系的にカリキュラムに組み入れて実施。
- > 第1期養成（18名） 2016年1月17日から2月28日まで**5日間・22時間**実施。
3月27日に現場研修を実施。
- > 第2期養成（9名） 2016年8月21日から9月25日まで**5日間・22時間**実施。
10月2日に現場研修を実施。
- > フォロー研修 2016年11月20日（法改正・現場体験発表・意見交換）

「量」で
はなく
「質」



養成研修

現場通訳実践研修

フォロー研修

修了生フォロー研修集合写真

出典：木下貴雄氏 あいち医療通訳システムフォローアップ研修資料より

9

介護通訳者（中国語）のボランティア派遣



～ 2016年4月1日からボランティア派遣開始 ～

通訳の対象となる内容

介護保険法に基づく諸介護サービスの**利用時**だけでなく、**相談時**、**手続時**等の場面においても、意思の疎通を円滑に行うことができるように通訳

- 【例】 役所の窓口における介護保険制度の説明、申請手続き
ケアマネジャー等による要介護認定の調査面談、ケアプランの説明
介護サービス事業者による契約時の説明、状況確認

派遣依頼者 本人・家族等、行政・福祉機関担当者・介護サービス提供事業者等

謝礼 2016年4月1日から2017年3月31日までは無料*（2017年4月から有償化）

通訳派遣回数：43回／派遣通訳者数：15名
（2016.4.1～2017.3.31）



出典：木下貴雄氏 あいち医療通訳システムフォローアップ研修資料より

10



愛知県の介護通訳に関する取組の課題

愛知県には医療通訳を派遣するシステムがある⇒医療通訳者に介護の知識を学ばせ、介護通訳者として派遣すればいい。（それでいいのか？）

「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト」により、通訳者養成の方法は示されているが、外国人高齢者は、母国で経験した味覚や遊びへの指向が再び現れたり、認知症などにより第二言語を失うなど、母国の文化をより理解して接する必要がある、同じ国籍の者以外での養成が可能か？

医療通訳者と比べ介護通訳者では、拘束時間が長くなりがちであり、通訳の相手方（本人・家族・ケースワーカー・施設の担当者）も幅広いことから、現行の2時間を一つの単位とした派遣形態では、利用者のニーズに対応できない恐れがある。

また、通訳する派遣先やシチュエーション（行政窓口、事業所、個人宅、医療機関）も多様であり、養成や通訳派遣でどこまで対応するかを明確にする必要がある。（コミュニティ通訳の領域では？）

11

- ホームページ

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka>



- フェイスブック

<https://www.facebook.com/Aichitabunkakyouseinet>



- メールアドレス

tabunka@pref.aichi.lg.jp

外国人にやさしい社会は日本人にとってもやさしい社会です。

多文化共生社会の実現に向け、皆様のご活躍を期待しています。

12